

美しいヨシ原を取り戻そう

南湖東部のヨシ帯を歩いた。ヨシの悲鳴が聞こえるような思いがした。

マコモやハスに追いやられるヨシ、腐敗した水草に押しつぶされるヨシ、陸化して雑草が優勢になったヨシ地……

以前、この地域の汀は、緩傾斜地で入り組んだ地形が多く、河畔林からヨシ等の抽水植物群、そして沈水植物群へと至る幅広い沿岸エコトーン(移行帯)を形成していた。湖岸には何か神秘的な雰囲気さえ漂っていた。そこでは、常に水位変動、浸食、堆積作用を受けつつ、陸域と水域の二生態間の緊張状態のもとに動的安定が保たれ、多様な生物の住処となっていた。

湖岸堤の建設はこの景観を一変させた。この地域では多くは汀線から沖側または汀線沿いに護岸がされたため、エコトーンは消失、分断され、水ヨシは物質移動を欠き泥が累積し、富栄養を好むマコモなどが優勢になった。南湖のヨシの衰退の原因は、基本的にはヨシ帯の底質がヘドロ化したことが最大の原因と考えられる。ヨシは砂地を好む植物である(本誌2号琵琶湖湖岸のヨシ群落について「立花教授」)南湖のヨシは、この急激に進むヘドロ化に耐えてきたが、とうとう耐えきれなくなり悲鳴を上げているのである。底質が泥化した原因の一つは先に述べた湖岸堤の影響が考えられる。これに追い打ちをかけているのが繁茂する外来藻である。ちぎれ藻がヨシ帯に大量に流入し、ヨシに巻き付き枯死させるとともに、堆積してヨシ帯の底土をヘドロ化させている。

このような原因により、ヨシが衰退し、泥に強いマコモ、ハスやスズメノヒエ(魚礁によいと植栽したのが琵琶湖の各地で異常繁殖している)にとって

代わられているのである。この現象は年々進んでおり、何らかの対策を講じない限り、南湖のヨシは近い将来姿を消すおそれが強い。

ヨシ条例では、ヨシ群落にはマコモやハス等も含まれており、烏丸半島のハスや中間水路のスズメノヒエの拡大はヨシ群落の衰退を意味しない。また生態系保護の観点から外来藻の刈り取りは最小限にとどめるべきである。行政からこのような言葉が聞かれることもある。また、ヨシ帯を清掃した大量のゴミが、一般廃棄物処理場の能力等の関係で市町村から受け入れに難色を示される場合もある。

どうも、条例が出来るまでは熱心であるが、出来ると何か目的が達成されたような気になり熱心が失われるきらいがある。ヨシについても、一時の熱が冷め風化が進んでいるような気がしてならないのである。

折しも県では、琵琶湖総合保全整備計画の策定が進められている。健全な琵琶湖を次代に引き継ぐため、水質や自然環境、景観の保全その他の施策に住民、市町村、県が一体となって取り組むこととされている。この中では、ヨシの保全、水質保全のために水草(外来藻)の積極的な刈り取りが掲げられている。これを契機にもう一度ヨシ群落保全への熱意が戻ることを期待したい。

ヨシは、万葉集に謳われるように雄大な琵琶湖の原風景であるとともに魚や鳥など生態系にとっても重要な植物である。

もう一度原点に戻り、かつての風にそよぐヨシ原を取り戻すため、ヨシ群落の保全に真剣に取り組もうではありませんか。

「エコライフグリーン倶楽部」第2期会員募集!

滋賀県と当財団では、県民一人ひとりがエコライフ(環境に配慮した生活を行うこと)の意識を高め、日常生活の中で実践していただくことを目的として設置した「エコライフグリーン倶楽部」の第2期会員を募集しています。(応募期限: 3月31日)

- ◆募集対象 県内に在住しているエコライフに取り組もうとする家族(第1期会員は除く) ※定員: 1,000家族
※会費: 無料
- ◆会員の活動 講義や現地見学などを通してエコライフを学習したり、家族ぐるみで自主的にエコライフの実践に取り組んでいただきます。
- ◆会員の特典 会員手帳、買い物袋、環境家計簿などの環境グッズやエコライフに関する情報を受け取ることができます。
- ◆問合せ先 当財団(電話: 077-524-7168)または 県庁エコライフ推進課(電話: 077-528-3491)